

# 高岡商工会議所地域経済動向調査 (令和3年度 第3四半期・令和3年10月～12月)

2021/12/23

## ポイント

- ◆ 売上高対前年同期比は-0.7と17.7上昇  
銅器・漆器製造業を除く全9業種で上昇
- ◆ 従業員水準は4期連続不足傾向  
全産業が不足となったのは国内の新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年第3四半期以来
- ◆ 材料、仕入価格の上昇が建設、製造、卸売で経営課題のトップ  
引き続き需要の停滞も建設業を除く4業種で上位にあげられる

## □全産業で上昇も今後は原材料価格の高騰やオミクロン株の影響など懸念される

売上高対前年同期比(全産業)は、-0.7と前回調査(-18.4)から上昇(表①・グラフ①)。産業別でみると、全ての産業が上昇となっているが、特に建設(40.3上昇)、卸売(33.3上昇)で大きく改善した。また、小幅ではあるものの5期連続上昇となった製造業では、銅器・漆器製造業が前回から17.6の低下で-17.6となった。

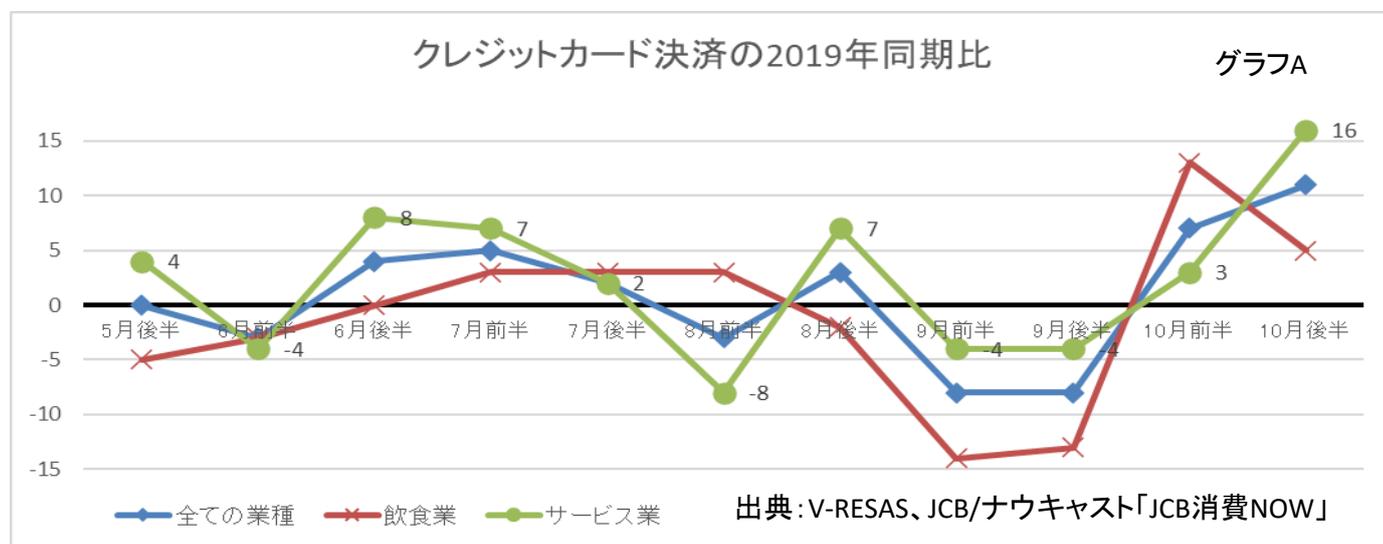
来期の売上見通し(グラフ④)は、減少との回答が11.6低下して増加・不変の合計が71.3%となり、やや前向きな見方をする経営者が増加した。産業別でも全ての産業で増加・不変の合計が減少を上回った。

採算性(表②、グラフ⑤)では、採算性は-31.1となり2期連続の低下となった。前期まで5期連続改善していた製造業は10.5低下し-25となった。

従業員水準(表④、グラフ⑧)は、4期連続不足傾向(0を下回る)となった。全産業が不足傾向(0を下回る)となったのは国内の新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度第3四半期以来である。本調査では、建設業は平成24年第2四半期以降38期、サービス業は平成23年第4四半期以降40期にわたり不足感が継続(連続)する結果となっている。

直面する経営課題では、建設業、製造業、卸売業で、材料価格、仕入単価の上昇がトップとなったほか、需要の停滞も建設業を除く産業で上位に挙げられている。

グラフAは県内のクレジットカード決済情報をグラフ化したものだが、落ち込んだ消費が新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたことにより9月から10月にかけて回復したことがわかる。本調査も、本年8月から9月にかけて適用された「まん延防止等重点措置」の影響などにより一旦足踏みした形となった令和2年度第2四半期を底とする本市産業が、再度その回復への歩みを取り戻したと感じられる結果となったといえるが、新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」の感染拡大や原材料価格の高騰、人手不足などが企業に及ぼす影響について注視が必要だろう。



# [地域経済動向調査概要]

調査月 令和3年10月～令和3年12月 (基準日12月1日)

対象 高岡市内事業所 335社

回答数 153社 (回収率 45.7%)

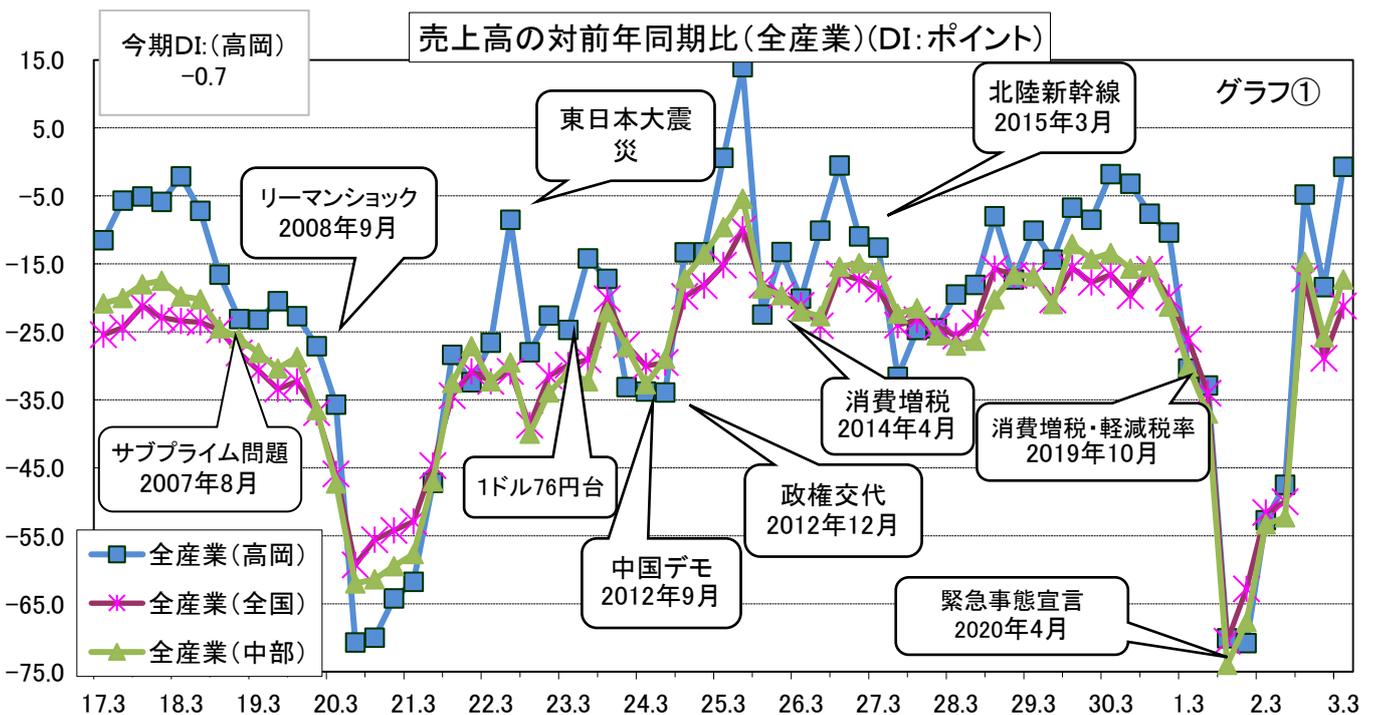
回答業種内訳及び構成比

	建設	製造	卸売	小売	サービス	全体
回答数	17社	73社	26社	16社	21社	153社
%	11.1%	47.7%	17.0%	10.5%	13.7%	100.0%

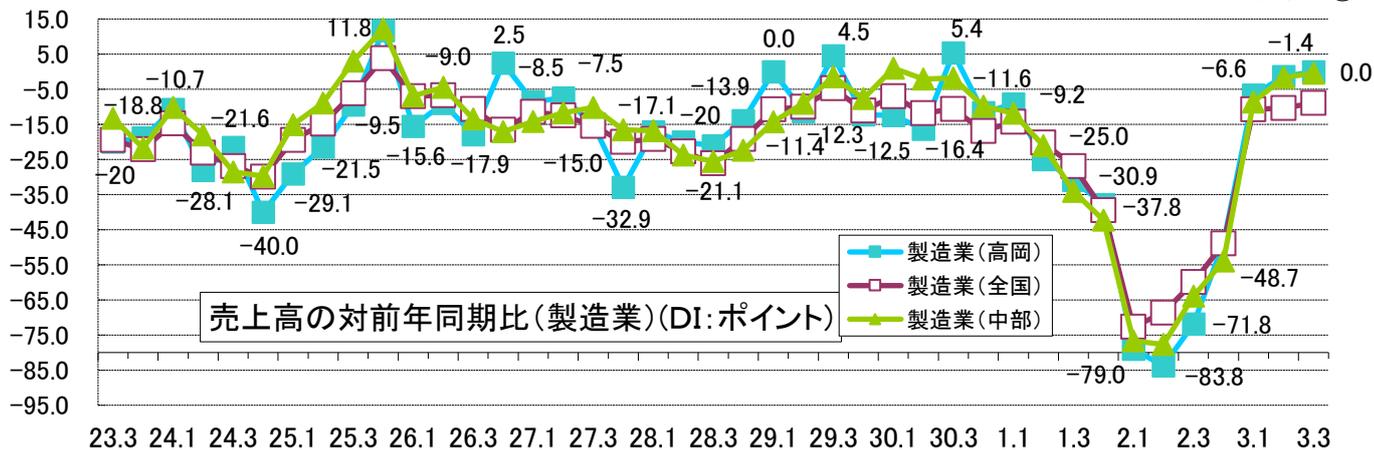
## ■1.売上高の対前年同期比 (%) (ポイント)

	増加	不変	減少	DI	前回DI	変化	全国DI	
業	建設業	29.4	23.5	47.1	-17.6	-57.9	40.3	-17.5
	総合・土木	20.0	40.0	40.0	-20.0	-63.6	43.6	-
	建築・職別工事	42.9	0.0	57.1	-14.3	-50.0	35.7	-
	製造業	38.4	23.3	38.4	0.0	-1.4	1.4	-8.9
	銅器・漆器	23.5	35.3	41.2	-17.6	0.0	-17.6	-
	アルミ・機械・化学・電気	56.4	7.7	35.9	20.5	14.0	6.5	-
	食品・繊維・紙・他	6.7	46.7	46.7	-40.0	-53.3	13.3	-
	卸売業	38.5	23.1	38.5	0.0	-33.3	33.3	-16.4
	銅器・漆器	20.0	40.0	40.0	-20.0	-57.1	37.1	-
その他	40.0	20.0	40.0	0.0	-27.3	27.3	-	
種	小売業	25.0	18.8	56.3	-31.3	-52.6	21.4	-33.4
	食品・衣料・雑貨	33.3	16.7	50.0	-16.7	-66.7	50.0	-
	電化製品・文化品・他	20.0	20.0	60.0	-40.0	-46.2	6.2	-
	サービス業	57.1	19.0	23.8	33.3	8.0	25.3	-23.9
	全産業	38.6	22.2	39.2	-0.7	-18.4	17.7	-21.2

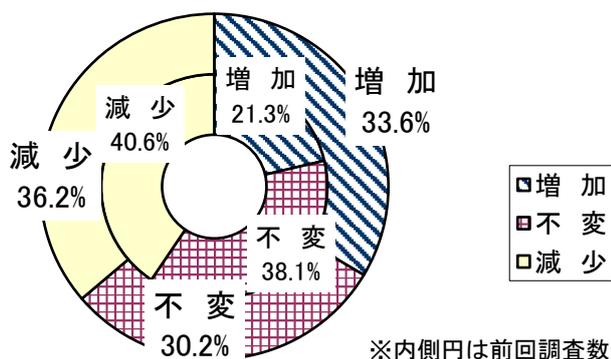
表①



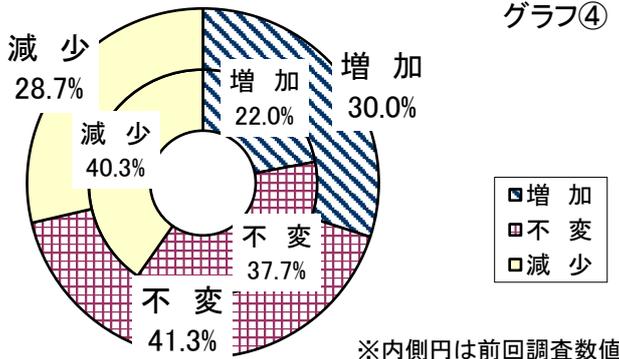
グラフ②



■ 2-1. 売上高の対前期比 グラフ③



■ 2-2. 売上高の来期見通し(対前年同期比)

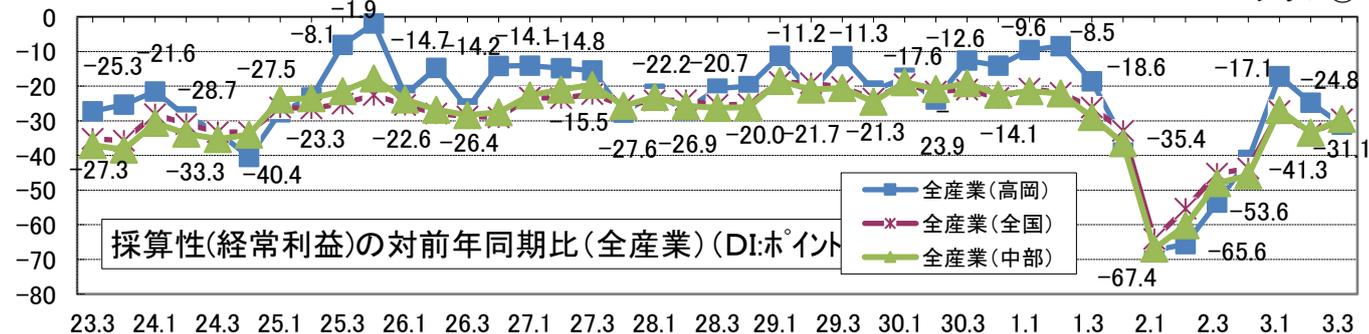


■ 3. 採算性(経常利益)の対前年同期比(%) (ポイント)

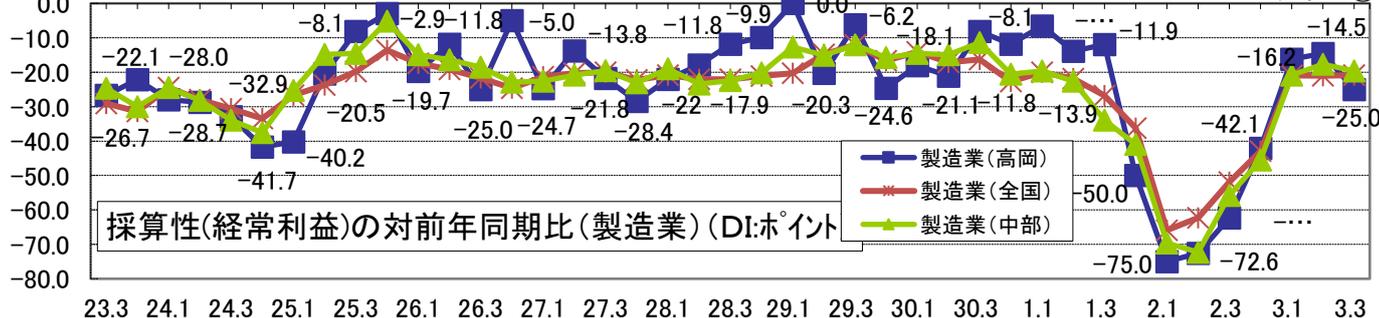
業種		採算性			DI	前回DI	変化	全国DI
		好転	不変	悪化				
業種	建設業	5.9	47.1	47.1	-41.2	-31.6	-9.6	-25.1
	製造業	22.2	30.6	47.2	-25.0	-14.5	-10.5	-20.8
	卸売業	4.0	44.0	52.0	-48.0	-40.0	-8.0	-22.7
	小売業	6.3	43.8	50.0	-43.8	-33.3	-10.5	-39.8
	サービス業	28.6	28.6	42.9	-14.3	-24.0	9.7	-31.5
	全産業	16.6	35.8	47.7	-31.1	-24.8	-6.3	-29.6

表②

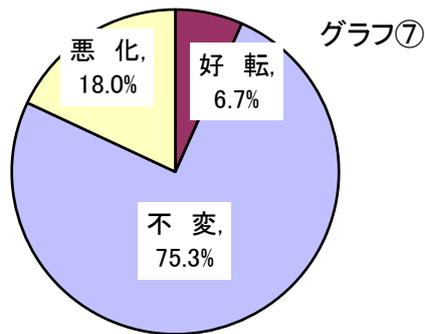
グラフ⑤



グラフ⑥



■ 4. 資金繰り(前年同期比)



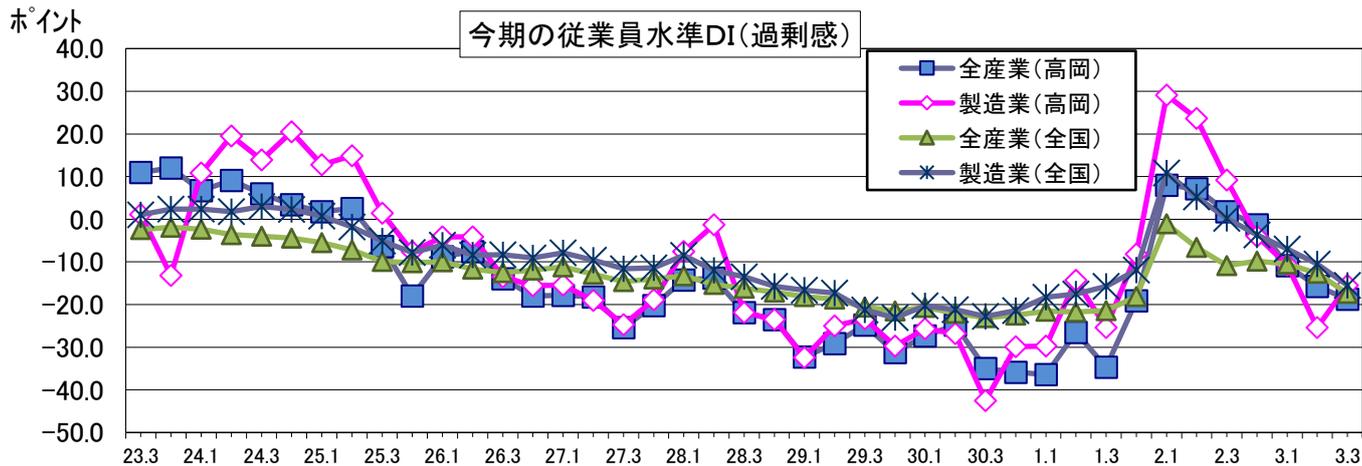
資金繰り(前年同期比)の推移

	好転	悪化	DI
3.3	6.7%	18.0%	-11.3
3.2	11.3%	19.4%	-8.1
3.1	12.7%	11.5%	1.2
2.4	5.7%	22.9%	-17.2
2.3	5.5%	28.7%	-23.2
2.2	2.0%	29.4%	-27.5
2.1	3.4%	38.6%	-35.2
1.4	5.8%	19.5%	-13.6
1.3	4.2%	9.8%	-5.6

表③

■ 5. 今期の従業員水準(今期の過剰感)

グラフ⑧



従業員水準(過剰感)の推移

表④ (ポイント)

	R1.4	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4	R3.1	R3.2	R3.3
建設業	-55.6	-61.1	-31.3	-37.5	-18.8	-33.3	-47.4	-52.9
製造業	-8.2	29.1	23.6	9.2	-4.0	-10.7	-25.4	-15.5
卸売業	4.2	16.1	0.0	20.0	14.8	10.7	16.7	-3.8
小売業	-17.6	4.8	5.6	-11.8	5.9	-15.8	5.6	-13.3
サービス業	-48.0	-16.0	-10.0	-7.7	-4.3	-16.0	-20.0	-23.8
全産業	-19.1	8.0	7.2	1.8	-1.3	-10.9	-15.7	-18.7

※数字が小さいほど不足感が強い  
複数回答

■ 6. 直面している経営上の問題(各業種の回答上位)

表⑤

建設業	①材料価格の上昇	19.5%
	②従業員の確保難	17.1%
	③材料の入手難	12.2%
製造業	①原材料価格の上昇	23.0%
	②需要の停滞	14.7%
	③従業員の確保難	12.0%
卸売業	①仕入単価の上昇	21.9%
	②従業員の確保難	12.5%
	②需要の停滞	12.5%
小売業	①消費者ニーズの変化への対応	20.8%
	②需要の停滞	18.8%
	③購買力の他地域への流出	8.3%
サービス業	①店舗・倉庫の狭隘・老朽化	15.2%
	②人件費以外の経費の増加	13.0%
	②需要の停滞	13.0%